

ベバシズマブとフルオロウラシルとレボホリナートの治療をお受けになる方へ



腫瘍は、正常細胞に比べて分裂増殖が盛んです。
 ベバシズマブとフルオロウラシルとレボホリナートは、分裂増殖が盛んな細胞に作用します。
 正常細胞でも分裂増殖が盛んな細胞(骨髄・消化管等)は、薬の影響を受けやすく副作用として現れてきます。
 以下に、治療の副作用をご説明しますがこれらの副作用がすべての方に必ず起こるわけではありません。

薬の名前	1日目	8日目	15日目	22日目	29日目	36日目	37~56日
フルオロウラシル (成分名:フルオロウラシル)							お休み

薬の名前	1日目	8日目	15日目	22日目	29日目	36日目	37~56日
レボホリナート (成分名:レボホリナート)							お休み

薬の名前	1日目	8日目	15日目	22日目	29日目	36日目	43日目
ベバシズマブ (成分名)							

症状や経過に合わせてお休み期間は変わります。

一日のスケジュール

	点滴時間	薬の名前	薬の働き
	15分	生理食塩水50ml グラニセロン デキサート	グラニセロン・デキサート; 吐き気を抑える。
	90⇒60⇒30分	生理食塩水100ml ベバシズマブ	ベバシズマブ; 腫瘍に栄養を与える血管を作られないようにする。
	120分	生理食塩水500ml レボホリナート	レボホリナート; 5-FUな作用を強める。
	10分	(レボホリナートの1時間後) 生理食塩水50ml フルオロウラシル	5-FU; 腫瘍の細胞分裂を抑える。
	10分	生理食塩水50ml	生理食塩水; 点滴チューブの洗浄および状態の確認

◎起こりやすい副作用について

●食欲不振・吐き気

程度の差はありますが、ほとんどの方に認められる症状です。
点滴治療の場合には点滴終了後3日程度と言われていた
症状が強い場合は時期に合わせて、吐き気止めのお薬を追加することがあります

●疲労感

身体がだるく感じたり、疲れやすさを感じる場合があります。多くは点滴後3日間程度と言われていた。この期間は無理をせず休息をとるほか、散歩など気分転換をはかるとよいとされています。

●骨髄抑制

白血球が少なくなると、病原菌に対する体の抵抗力が弱くなり、感染症を起こしやすくなります。そのため、手洗い・うがいを心がけましょう。

特に治療期間中38.0度以上の発熱、37度台であっても悪寒や咳、のどの痛み、排尿時の痛みなどがある場合は感染症にかかっている場合があるので病院へ連絡しましょう。

赤血球が減少することで貧血になる場合があります。

血小板は止血に働くため減少が強いと出血しやすくなります。歯茎からの出血や鼻血の症状に注意が必要です。

●下痢・便秘

1日3回以上の排便回数の増加や水様便が出る場合があります。

症状が続く場合は、脱水症状を防ぐため水分補給を行ってください。

症状に合わせて下痢止めを使う場合があります。

また、便秘になる場合もあるので便秘の場合は下剤を使用することがあります

●口内炎

口の中・歯肉・咽頭がしみる、ひりひりする、赤くなるといった症状が出る場合があります。

口内炎は予防がもっとも大切です。口の中を清潔に保つよう心がけましょう！！

●脱毛

この治療は脱毛の頻度は比較的低いとされています。抜け毛が気になったり、髪の毛が細くなる場合があります。個人差があるため、多く抜けてしまう場合もあります。おおよそ薬の投与2～3週間後から多く起こります。髪は、抗がん剤の治療が終われば3～6ヶ月後には再び生えてくる場合が多いです。

●血管痛・静脈炎、注射部位熱感・局所痛

薬が血管を刺激するため、治療中に血管の痛みや腫れが起こることがあります。また、数日後にも発赤、腫脹、熱感などを感じる場合があります。異常を感じたらすぐにお知らせください。

●間質性肺炎

息切れ、呼吸苦、せき及び発熱の症状が続く場合は早めに相談しましょう。

●出血

鼻血や歯肉、膣などの粘膜から軽度の出血がみられることがあります。鼻からの出血は通常軽く、自然または鼻にティッシュをつめることで止まります。

●血圧上昇

血圧が上昇することがあります。急な頭痛があれば教えてください。日常的に血圧が上昇してきた場合、血圧を下げる薬を使用することがあります

●タンパク尿

尿からタンパクが出て尿が泡立つ場合があります。

めったに起こらないが重大なもの

●消化管穿孔

急な腹痛に注意をしてください。普段とは違う腹痛や持続する腹痛の時は受診をしましょう。

●脳出血、血栓塞栓症

急な頭痛や四肢の動きが悪い場合は注意が必要です。異常が感じられた場合には相談しましょう。

●止まらない出血

鼻出血やその他止まらない出血の場合には受診をしましょう。



これら以外の副作用があらわれる場合もありますので、
気になる症状があらわれた際には必ず医師、薬剤師または
看護師にご相談ください。

担当薬剤師

--